

導入

イスラエルには12の部族があります。ベニヤミン族は悪行をしたので、他の部族は団結し、ベニヤミン族に戦いを挑むことに決めました。

15-16節

ベニヤミン族は剣を使う者2万6千人と700人の者を集めました。その中に、多くの左利きの戦士がいました。小人数ですが、精鋭揃いです。

17節

イスラエル人は剣を使う者40万人を集めました。彼らは皆、戦いに適した者たちでした。イスラエル軍は、ベニヤミン族の軍よりも人数では勝っていましたが、ベニヤミン族は精鋭揃いでした。イスラエル人たちがここで何をするかご注目ください。

18節

彼らはベテルに行って祈りました。ただ祈っただけではなく、具体的なことを神に尋ねました。神も、その具体的な祈りに答えてくださいました。神は、ユダを最初に戦いに出すようおっしゃいました。具体的な祈りをするのはとてもよいことです。私たちが具体的に祈るなら、神はその祈りに答えることができるお方ですし、祈りに答えたいと望んでくださると思います。数年前、私は職場にいました。ある問題をどうやって解決してよいかわからず、祈りました。その夜、夢の中で祈りの答えが出てきたので、起きて実行してみるとうまく行きました。

イスラエル人たちは祈りました。神も具体的な答えを与えてくださいました。ですから、彼らは戦いに出る準備ができたわけです。

19-20節

彼らはベニヤミン族のいる場所に出かけていき、陣を敷きました。ベニヤミン族の前に陣を置いたのです。ここはこの話の重要なポイントです。先を読み進めると、その理由がわかるでしょう。彼らは準備ができています。戦士はみな列を組んでいます。きっとその光景は、映画のワンシーンのようだったでしょう。戦士たちをひとりひとり映そうとカメラが回ります。バックには、戦いを連想させるクラシック音楽が流れています。彼らが祈り、神が答えてくださいました。隊を組み、準備万端です。勝利は目前だ!!! さあ、出陣! といいた雰囲気です。次にどうなったでしょう。

V21-23(b)

イスラエル軍は、2万2千人の戦士を失いました。何が起こったのでしょうか。なぜでしょう。彼らは戦いに敗れ、退陣したのです。彼らは涙ながらに祈りました。これは、なかなか理解するのが難しい聖書箇所です。神に従ったのに、失敗したのですから。

数年前、神はみことばを通して私にあることをはっきり語ってくださいました。信仰によって踏み出し、行動を起こしなさいと語られたのです。神が私に課しておられる課題があると私は信じていました。けれども、私にとって大きな一歩を踏み出す必要があると思ったので、続けて祈りました。私はあらゆる備えをして自分のすべきことをできますが、その課題がうまくいくためには神の奇跡が必要でした。神が奇跡を起こしてくださらなければ、その課題は失敗に終わります。

祈れば祈るほど、神は私の思いを強くされ、信仰の一歩を踏み出すことについて平安も与えてくださいました。ちょうどそのころ、OICの日曜礼拝のメッセージを聞いていて、神からの確信を得ました。信仰の一歩が成功するためには、私がある一歩を踏み出さなければなりません、神からの奇跡が必要です。ひとりで聖書を読めば読むほど、神はその一歩を踏み出すよう確信を与えてくださいました。こうして私は、その一歩を踏み出さざるを得ないことになりました。そして信仰の一歩を踏み出したのですが、まったくの失敗に終わりました。神が奇跡を起こしてくださらなかったのです。私は戸惑いました。

私は神に対して怒りを覚えました。神は本当に神だけれど約束を守ってくださらないお方なのか、または神は本当に神ではないかのどちらかだと思いました。

そして、神は本当に神だけれど約束を守ってくださらないお方なのだという結論に落ち着きました。神は約束を守らない父親のようだと思います。そういう父親は、「週末になったら公園に連れて行ってあげるよ」と子どもに言いますが、週末になるといけません。ですから、私はそんな神を礼拝したくもないし、交わりたくないと思いました。妻や息子のために教会には来るけれど、自分は神を礼拝しない、祈りたくもないと思いました。食事のときでさえ、妻が「祈りましょう」と言うと、私は「君が祈ればいい。僕は神と話をしたくない。神は私にこうしなさいと言うのに、約束を守ってくださらないから」などと言いました。約2週間、私は神を避けました。祈るべき状況に出くわしたときでも、祈りませんでした。けれども2週間ほどして、私は孤独感でいっぱいになりました。神のいない生活は寂しすぎました。もう我慢できずに神に心を開くと、心が生き返ったようでした。

この個所で、彼らは祈り、神のおっしゃったことに聞き従いましたが、戦いに敗れました。でも、彼らは私ようではありません。神に向かって怒ったり、神を恨んだりしません。それどころか、もう一度祈ったのです。何について祈ったのでしょうか。

23節(b)

もう一度戦いに行くべきかどうか、神に尋ねました。彼らの祈りには感心します。もし私に相談してきたら、こう言うでしょう。「もうやめておいたほうがいい。扉が閉ざされたのだから。神のみこころがここにはないのは明らかだ。神の声を聞き間違えたのだ。」けれども、彼らは私より勇敢な人たちのようです。クリスチャンにはふたつのタイプがあるように思います。

1. 神の備えを信じる。—もし備えてくださらなかったら、神を信じるのをやめる。または神に対して怒る。
2. 神の備えを信じる。—もし備えてくださらなくても、信じつづける。

ふたつめを実行するのは、なかなか容易ではありません。

結婚するずいぶん前のことですが、宣教師だった私はお金に困っていました。あるとき、家賃の支払日がやってきました。そのアパートでは、家主が一軒一軒のアパートを回って家賃を現金で徴収します。家賃の支払日が来ましたが、私にはお金がありませんでした。出かけていた私は、家賃を取りに家主が来たら何と言おうか考えていました。私は神を疑い始めましたが、突然、元気が湧いてきました。神が備えてくださる、と自分に言い聞かせました。家に帰ったら、郵便受けにお金がきくと入っていると思いました。家に帰ろうと歩きながら、私は奇跡を体験させてもらえるのだ、とワクワクしてきました。うれしくて走って帰りました。祝福を目指して走っていたのです。興奮気味で、いつかメッセージにこの話を使おう、と思いました。家に着いて郵便受けを覗くと、空っぽです。頭が混乱しました。同時に、謙虚にもさせられました。そして、神に失望しました。このとき、私が持っていた神への信仰と神についての知識が試されました。私はわけがわからないまま、家に入って座りました。家主に話をし、神は二日後にお金を与えてくださいました。本当に、謙虚にさせられる経験でした。

この話の人たちは、私ようではありません。神が備えてくださると信じています。もし神がそうしてくださらなくても、**神を信じて戦う覚悟がありました。**

彼らは私より勇敢です。神は次にこうおっしゃいました。

23節C

神は、もう一度戦いに行きなさいとおっしゃいます。「神の声をちゃんと聞けなかったのだ。もう帰ろう」と言った人はいなかったのでしょうか。イスラエルの民が次にどうするか注目してください。

24節

イスラエル人は、もう一度戦いに行きます。私ならどうしていたでしょう。また、映画の戦いのシーンです。戦士たちが隊を組み、カメラが回り、バックに音楽が流れています。彼らは再び、ベニヤミン族の前に、陣を敷きます。次にどうなるでしょう。

25節

今度は1万8千人が死にました。また負けたのです。こう思った人もきっといるでしょう。「こんなはずじゃないのに。神が『行け』と2度おっしゃったから、私たちは2度『行った』のに。神は私たちが失敗するよう仕向けておられるのだろうか。神の御手は私たちに敵対しているのだろうか。」2度も戦いに負けたので、人々は次のように思ったのではないのでしょうか。

1. 神は本当に神なのだろうか。
2. 神は本当に神だが、私たちは明らかに神の声を正しく聞いていない。
3. 神は私たちが失敗するよう仕向けておられる。
4. 神が私たちに敵対しておられる。
5. 神はみんなを祝福されるが、私のことは祝福してくださらない。

こんなふうに思ったことはないのでしょうか。私はあります。次にどうなったでしょう。

26-28節A

イスラエル人は全員、山を登って退陣しました。全軍が戦いに敗れて歩いて戻る様子を想像してみてください。疲れ果て、失望した戦士たちがとぼとぼ歩く映画のシーンを思い描いてください。彼らは断食して祈りました。何を祈ったのでしょうか。彼らの祈ったことはこんな内容だったのでしょうか。

- 家に帰ったら何をすればよいのか。
- 日常を取り戻すにはどうすればよいのか。
- 私のせいで負けたのか。
- 祈りが足りなかったのか。

彼らが何について祈ったか見てみましょう。

28節B

彼らは神に、もう一度戦いに出るべきか尋ねました。私なら、「もう家に帰ろう。扉は閉ざされた。私たちは祈って頑張った。やるだけのことはやった」と言うでしょう。しかし、次の神の答えに注目してください。

28節C

「攻め上げ。あす、彼らをあなたがたの手に渡す。」
驚くべき答えです。さて、どうなったでしょう。

29節

彼らは、**敵の周りに**伏兵を置きました。初めの2回、彼らはベニヤミン族の前に隊を組みました。今回は、敵の周りに伏兵を置くことにしました。つまり、**あきらめるのではなく、やり方を変えてもう一度トライしたのです。**彼らは、**失敗から学びました。失敗から多くを学ぶことができます。**

30-35節

時間の関係で、残りの聖書箇所は読みません。そのあらすじをお話しましょう。要約すると、**神がベニヤミン族を倒し、イスラエル人が戦いに勝ちました。**私はこの聖書箇所が大好きです。私もたくさん失敗をしてきたので、この話を読むと希望が湧いてくるからです。信仰の一步をいろいろ踏み出して、何度も失敗してきました。神はこの聖書箇所を用いて、何度も私をご自身のもとへ引き戻してくださいました。だから、失敗した時は、この聖書箇所を思い出すようにしています。

私が子どもの頃、叔母が馬を持っていました。私たちはよく、鞍もつけずにその馬に乗ったものです。私は馬に乗りましたが、よく落ちました。私が泣くと、叔母はこう言うのです。「もう一度馬

に乗りなさい。生きていくのと同じよ。もう一度乗りなさい。」イスラエルの民は、一度目に失敗しました。二度目も失敗しました。けれどもその失敗から学び、三度目には勝利を得ました。

今日の聖書箇所から何を学べるでしょう。

1.失敗から学んで改善できるなら、失敗は失敗に終わらない。

- 先日、ある少年に出会いました。彼は今までにいくつかの過ちを犯していました。もう人生をあきらめているようでした。何もやる気がありません。もしずっとそのままの人生を選択するなら、それは失敗です。けれども、彼がもう一度「馬に乗る」なら、神は彼の過ちを用いてよいことを成してくださると私は信じます。
- クリスマンであるあなたが私のように何かに失敗してしまったら、自分を責めるよりも、失敗から学んで改善し、前に進むのが自分のためです。神は失敗や過ちも良いことのために用いてくださいます。
- 神はすばらしいお方ですから、失敗や過ちも益とすることがおできになります。

2.神に何かをするよう導かれて、それが失敗したとしても、神が扉を閉ざされたとは限らない。

- 私たちの多くが誤解しやすいのがこの部分です。もしかすると、もう一度やり直さないという意味かもしれません。馬にもう一度乗って、やってみるのです。やり方を変えなくてはならない場合もあるでしょう。

3.信仰の一步を踏み出して失敗する方が、信仰の一步を一度も踏み出さないよりましだ。

- クリスマンを二種類に分けることができます。
- 1. いつも頑張るが、失敗もする。（今日の聖書箇所の人々のように）
- 2. 失敗を恐れて、何事にも挑戦しない。

神は1のタイプの人を望まれると思います。2のタイプの人たちは、信仰の一步を踏み出そうとしないからです。信仰の一步を踏み出すことなく、人生を終えるのです。ここにいる皆さんの中で、「神が私に語っておられる。私は変わらなくては。今の生き方は望ましくない」と思っておられる方がいらっしゃるかもしれません。そうなら、変わってください。「やってみただけど、うまくいかなかった」と思っている人もいるのでしょうか。もしそうなら、今日のみことばに出てきた人たちのように、もう一度トライしてみてください。「でも変わろうとして失敗したら？」と思いますか。またやってみればよいのです。もう一度馬に乗るのです。やり方を変えて、何度でも挑戦しましょう。